

令和7年度 山城地方教育 実践フォーラム を開催しました

確かな学力の育成を目指して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、山城地方の小・中学校における学力の充実・向上の一層の推進を図るため、「山城地方教育実践フォーラム」を開催しました。

当日は、管内の教員が公開授業を参観した後、全体会をワークショップ会場にてオンラインで視聴しました。ワークショップでは、公開授業や全体会での気づきや学び、自身の実践などをもとに授業改善をどのように進めるかについて、協議しました。

日 時	令和7年 11 月 14 日(金) 13 時40分から 16 時 30 分まで
会 場	城陽市立久津川小学校 ・ 城陽市立城陽中学校
主 催	京都府山城教育局・山城地方学力向上対策会議
参 加 者	管内小・中学校教職員(学力担当教員、研究主任、教務主任、山城地方小・中学校授業実践リーダー育成研修会受講者 等) 管内幼稚園・認定こども園教職員(希望者) 管内府立学校教職員(希望者) 管内各市町(広域連合)担当指導主事、各地方校長会学力向上対策会議担当校長 等 計 151 名

日 程

	城陽市立久津川小学校	城陽市立城陽中学校
公開授業 (5校時)	2年2組 山口 清志(国語科) 「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」 『お手紙』 4年2組 乾 拓真(国語科) 「つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう」 『友情のかべ新聞』 6年1組 永井 友浩(国語科) 「作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう」 『やまなし』	1年3組 秋元 伸(理科) 「音の違いと振動のようすの関係」 2年4組 宮本 隆行(数学科) 「図形の性質」 3年4組 浅井 浩史(国語科) 「森鳴外 高瀬舟」
全体会・ワークショップ	(1) 開会行事 ア 開会挨拶 京都府山城教育局 局 長 坂田 康一 イ 課題提起 京都府山城教育局 指導主事 杉山 尚 (2) ワークショップ(公開授業別) (3) 閉会行事 閉会挨拶 山城地方学力向上対策会議 会 長 木津川市立木津第二中学校長 齋藤 昌宏	

城陽市立久津川小学校 公開授業レポート

2年 国語科

「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」

『お手紙』 授業者 山口 清志 先生

単元の導入では、物語の登場人物に手紙が届く「魔法のポスト」を用意し、「自分とくらべて読み、登場人物に手紙を書こう」という単元のゴールに向けて、児童が意欲的に取り組めるよう工夫しました。

単元計画表を提示し、学習の見通しをもたせるとともに、「自分だったら」という視点を取り入れながら振り返りを書くことで、自分の考えの変化を実感できるようにしました。

授業当日は、二つの挿絵を比較し、「なぜ二人とも『幸せな気持ち』になったのか」を考えたいという課題意識をもたせました。まず個人で考え、その後小グループで交流することで、自分の考えをしっかりと持ち、友だちに伝えることができました。

また、単元に入る前に手紙のやり取りを経験させ、手紙をもらう喜びや楽しさを味わうことで、登場人物に寄り添った考えをもつことができました。振り返りでは、友達の見解から自分の考えが深まった児童もあり、深い学びの実現につながった授業でした。



参観者の声

主体的な学びとなる単元構想、授業づくりの視点から、単元目標を毎回提示することで、子どもが何を目標にするのかが、分かりやすいと感じました。また、1時間ずつで何を学ぶのか、どうするのかが明確だったので子どもたちがみんな同じ方向を向いていたのがとても印象的でした。

4年 国語科

「つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう」

『友情のかべ新聞』 授業者 乾 拓真 先生

本単元は、「ミステリー」という子ども達には、あまりなじみのないジャンルの作品を題材にしています。断片的に散りばめられたヒントをもとに読み、物語の最初と最後の変化を読み取ることで、また友達との感じ方も楽しむところに単元の目標をおいています。

物語の中で最後に「答え」は出ていますが、「答え」を読む前と後について、それぞれの推理の違いを交流し、自分と友達との考えの違いや、新しい気づきを楽しむことが本授業のめあてでした。

一人学びの時間をたっぷり取ることで、自分の推理（考え）をもつことができました。また、グループでの協議では、自分たちの考えを視覚化するためにホワイトボードを使って相手に伝えることにしました。全体交流では、一人の意見に対し、多くの意見が飛び交い、一つの意見に対し、学級全体で考える授業となりました。



参観者の声

自分たちでめあてを考え、それに向かって一人学びで考えたことをグループや全体で共有されていました。

子どもの発言に対して、子どもの意見で返させ、子ども同士が話し合う中で答えを明確にしていく展開はとても学びとなりました。



6年 国語科

「作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう」

『やまなし』

授業者 永井 友浩 先生

単元の導入時より、子どもたちの疑問や知りたい、調べてみたいという思いを軸に単元授業計画を設計していきました。

本時では授業スタイルが浸透していることと、“褒めるだけではなく、認める”丁寧な声かけや支援のもと、子どもたちが安心できる状況のもとで授業が進行していきました。

また、自分の意見をまとめるツールとして Teams かノートを選択しました。更に新たな意見を求めるために主体的に他者と意見交流したり、個での学びを継続したり等、思考を深める形態も子どもたちが選択しました。最後にはめあてに迫るまとめループリックに沿った振り返りまで、子どもの意見を詳細に引き上げながら流れていきました。

Teams、ロイロノートのそれぞれの利点を生かした活用に工夫が見られ、それに対する子どもたちの活用能力も高まっています。



参観者の声

子ども達が自分の言葉で自信を持って発言しているのが印象に残りました。授業の前に楽しくアイスブレイクのような時間があったり、たくさん友達同士で話をさせたり、友達の意見を説明させたり、来週から取り入れたい工夫もたくさんありました。授業のめあての立て方や、そのせまり方もやってみたいと思いました。



城陽市立城陽中学校 公開授業リポート

1年 理科 「音の違いと振動のようすの関係」

授業者 秋元 伸 先生

本単元では、音が振動によって生じることを理解し、音の高さや大きさが振動の速さや振幅に関係することを見いだすことを目指しました。

本時では、オシロスコープを用いて波形を比較し、音の違いを探究しました。導入で前時の復習を行い、めあて「音の違いと波形の関係を探る」を確認し、展開では、生徒が ICT 機器で高低・大小の音を出し、その波形を共有して、振幅と音の大きさ、振動数と音の高さの关系到気づきました。

さらに、複雑な波形や声の特徴にも着目し、グループで探究を深める姿が見られました。まとめでは、学んだことを整理し、「音の高さは横幅、大きさは縦幅に関係する」と発言があり、子どもたちの学びの深まりがうかがえる授業となりました。



参観者の声

「学習指導と生徒指導の一体化」の重要性を改めて感じさせられた時間であった。落ち着いた学習環境は、生徒同士の意見交流を活発にし、内容を深めることにつながる。本時だけでなく、これまでの子どもたちとの関わり方や学級経営に丁寧な取組があったことが伝わる授業だった。



2年 数学科「図形の性質」

授業者 宮本 隆行 先生

本単元では、平行線の性質や三角形の合同条件など既習事項を基に、図形の性質や条件を論理的に考え、表現する力の育成をねらいとしました。

証明の反復練習が作業的になりやすい課題を克服するため、図形の特徴を理解し、それが生活にどのようにつながるかを考える視点を重視しました。

本時では、身近な三角形を題材に、その特性が活かされる場面を認識し、利便性を実感しながら活用の理由を考察しました。トランプタワーの話題からめあてへ自然につながり、生徒が自分事として考えられる導入で始めました。

個別・ペア・グループでの思考の時間が効果的に設定され、その都度、生徒の意見や疑問を拾いながら考えを紡ぐファシリテートが行われました。

また、ICT 機器の活用も工夫され、ヒントカードの提示や既習事項との関連付けが随所に見られ、生徒は粘り強く意欲的に考察する姿を見せていました。



参観者の声

常時小グループで話し合わせることによって、支え合う人間関係ができていました。瞬発力のある協働学習のスタイルを確立されており、参考になりました。

また、単元を通した課題として、図形の本質に迫る内容を考えさせていたことに驚きました。その内容に迫るまでの導入として、めあてを自分ごととしてとらえられるような工夫をされていて学びにつながりました。

3年 国語科「森鷗外 高瀬舟」

授業者 浅井 浩史 先生

単元の導入では、「作品に隠された生きるためのヒントは何だろう。」という単元を貫く問いを設定し、学習をスタートしました。

本時の学習では、主人公の庄兵衛が罪人である喜助の話を聞いて迷いを抱える場面から、「生きるためのヒント」を探しました。生徒は、50分間どっぷり文学の世界に浸り、時には一人で、時には友達と、時には先生と一生懸命に考え続けることができました。

単元末の次時では、この単元を通して学習したことについて振り返り、自分の考えをまとめます。

作品を読み、考えたり、仲間と語り合ったりするという文学の楽しみ方を体感できる有意義な単元となりました。



参観者の声

50分経過しても生徒の集中力が持続している国語の授業はすごいと感じました。ライフスキル教育や非認知能力を伸ばしていることも客観的に感じる事ができた授業で、日頃の学級経営や学び合いからの人間関係づくりを感じました。



ワークショップ

公開授業別のワークショップ会場にて、山城教育局指導主事が進行役となり協議の柱に沿って交流協議を進めました。参加された先生が、公開授業で得た気付きや学びと、自身の実践とつなげながら、授業改善のイメージを広げたり、深めたりするなど活発な協議が行われました。



公開授業・授業改善の3つの視点を踏まえ、本日最も学びと感じられたこと

学習指導と生徒指導の一体化を進める中で、自己存在感を感じ安心した居場所があることが、主体的に挑戦して行く態度を身につけるということが実際に授業の中で感じられたので勉強になりました。

生徒同士の関係性や先生との信頼関係がとても良く、仲間の意見に対してうなずきながら聞く姿勢が印象的でした。共感的な人間関係や安全安心な風土の醸成が普段の生活からしっかりと育まれていると感じました。

日頃の学校生活において生徒との良好な関係づくり、つまり非認知能力が、学習に向かわせる姿勢をよりよいものにしていくということが非常によくわかる授業でした。

1. 学習指導と生徒指導の一体化



普段の授業づくりと人間関係づくりなどが想像でき、学習に前向きに取り組める環境だけでなく、互いを尊重し合う集団になっていて、一体的に育まれることを体感しました。

授業を展開していくにあたり、教室の安心できる温かい雰囲気づくりはとても大切だと改めて感じました。子どもたち同士を繋げる声掛けや、自分の意見を素直に言えたり、喧けたりできる雰囲気があり、互いに認め合う集団づくりの大切さを感じました。

2. 主体的な学びとなる 単元構想・授業づくり



子どもたちが主体的に学ぶための仕掛けがふんだんにされていると感じました。まず単元のゴールを毎時間しっかり押さえられることで、子どもたちは何をすべきか、どこに向かうべきか、しっかりと把握することができると感じました。またお手紙を書いたりもらったりする経験を事前しておくことで、より登場人物の気持ちに寄り添って読み取りができるのが素晴らしいと感じました。

単元のゴールを明確にし、児童と共有できるように毎時間提示し、確認されていました。ワークシートにおいても、本時の流れがわかりやすいものとなっていて、学習の積み重ねがわかるような掲示もされていました。毎時間、まとめの後の振り返りでは、「自分だったら…」という視点を持たせて取り組まれました。

「お手紙を書く」という目的を達成するために、国語科だけでなく、他教科(道徳)と絡めて単元計画されていたところも大変勉強になりました。

児童の実態に合わせた授業改善を工夫されていました。

単元のゴールの都度確認、ワークシート、思考の見える化などで、見通しを持って安心して取り組めていました。振り返りも手がかりが提示され定着していたように思います。

3. 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」という視点で、ICT の効果的な活用について改めて考えさせられました。

今回の授業ではアナログで進められていましたが、アナログならではの良さも感じる一方で、ICT を活用することでより効率的・効果的に学びを深められる場面が多くあると気づきました。ICT 活用の目的や方法を再確認し、単なる便利さではなく、学びの質を高めるための活用とは何かを考える良い機会となりました。



ペア活動とグループ活動の有用性を感じることができました。ICT 機器についても効果的に使うことが大事だと改めて感じることができました。

本日の学びを自校で広めるために、自身・自校でできそうなこと

～組織的な授業改善を目指して～

3つの視点を持ちながら、授業を進めていきたいと思います。とくに単元全体を見通した展開をすることで、子どもたちが見通しを持って取り組むことができると感じます。またその単元で身につけた力を上下の学年に繋げられるよう、系統立てた指導を全校で行っていききたいと思います。

生徒たちは（先生や友達の話）を一生懸命聴くことを行っていました。研究部として授業改善を行っていく中で、聴く力にも焦点を当てていくのも大事ななと思いましたので、生徒指導の4つの視点に焦点を当てつつ、そのためには聴く力の向上も伝えていきたいです。

めあてを子どもたちに立てさせることが自己決定の場になると感じたので自校でも取り入れていきたい。また話し合いのときに、話すことはできるが聞くことに課題がある児童が多いので、グループで1つのホワイトボードにまとめる方法も取り入れていきたい。

生徒との関係づくりは今でも力を入れて行っているので、引き続き継続したいです。自校の課題として、学習意欲の低さが挙げられるので、学ぶことの楽しさを追求していける授業づくりや研修を今後も模索したいと思っています。

子どもの意見を認めて広げる声掛けをしていきたい。授業の中で自分の発言が自由にできる雰囲気を作っていきたい。発問も子どもが考えやすい具体的でわかりやすい発問を心がけていきたい。

ペアとグループ活動の分け方、教師と生徒の言葉がけの仕方を特に広めたいと思います。授業では、子どもたちが話し合いの習慣ができており、その初めと終わりのメリハリも、教師が注意しなくてもできていました。それを目指したいです。

児童の振り返りの想定と、目標からまとめまでを一貫した単元計画。意図を持った学習活動と個別最適でもあるグループ活動の探求。

改めて、1人で研究するのではなく、学年や研究主任等、関係の先生方と連絡を密にしながら進めていくことの大切さを感じた。

会場と授業を提供していただいた両校の皆様、そして山城管内のたくさんの先生方にお越しいただきましてありがとうございました。
たくさんの学びを得ることができました。